



羅針盤

発行:サイクルーズ株式会社
編集:サイクルーズ株式会社 大森オフィス
東京都品川区南大井6-26-3
大森ベルポートD館 8F
電話: 03-6410-8797
URL : <https://www.cyclers.co.jp/>

Market Forecasts by Y. san -8月-

鉄スクラップ

指標となる東京製鉄宇都宮工場特級価格の7月開始は40,500円/トンからスタートし、10日に500円/トン下がりを28日現在40,000円/トン。8月に関しては、解体案件や製造業の工場で発生する鉄スクラップの減少を考えると横ばいになるでしょう。

銅

7月の国内銅建値のスタートは1,500,000円/トン、LME10,000ドル/トン台。月初から多少の上げ下げを繰り返して、28日時点1,490,000円/トン。LME9,700ドル/トン台。8月に関しては、米国の銅輸入関税発動により大きく動くでしょうが、価格は一応横ばいと思われる。

7月予測の自己評価 鉄スクラップ;× 銅;○ アルミ;×

アルミ

7月のLMEは2,590ドル/トン台からスタートし、28日現在2,600ドル/トン台とほぼ動きなし。8月に関しては、関税問題により大きく左右されるが、缶・自動車向けの製品が伸び悩んでいることから、下がると思われる。

産業廃棄物

処分場でリチウムイオン電池が原因となる火災が後を絶ちません。排出者事業者では対応しきれない現状ですが、東京都のモデル契約書ではリチウムイオン電池の処理を委託していない場合には、排出事業者が引き取り、その責任において適正に処理を行うものとしております。重ねての周知が必要と思います。

Topics

紙の歴史

今回はリサイクルされている素材の中でも優等生の一つ「紙」について述べたいと思います。

紙の起源について、読者の皆様は古代エジプトで使われていたパピルス(英語paperの語源であるといわれる)が紙の起源ではないかと思われていることでしょう。しかし、筆者の知る限りでは、紙の歴史は紀元前2世紀頃、中国で発明されたとされており、西暦105年頃に蔡倫(さいりん)という後漢時代の役人が行った製紙法の改良により使いやすい実用的な紙がたくさん作られるようになったと言われています。当時の紙の材料は、麻のボロきれや、樹皮などだったそうです。

では、そもそも紙って何?ですが、紙とは「水中でばらばらにした植物などの繊維を、薄く平らにのびして乾かしたもの」とされており、パピルスはパピルスという草の茎を薄く裂いて、縦・横に並べ圧力を加えて脱水し、乾燥させたものなので、厳密に言うとならば紙とは言えないそうです。

さて、日本へは、610年(推古18年)。高句麗の僧、曇徴(どんちょう)が墨とともに日本に製紙法を伝えたと言われていますが、それ以前に紙漉きが行われていたという説もありようではっきりしません。当初、使われていた材料は「麻」でしたが、その後「コウゾ」や「ガンピ」などの植物も原料として使われるようになり、紙を漉く方法にも独自の改良が加えられ、日本オリジナルの“和紙”として発展していくこととなります。

日本での紙のリサイクルは平安時代に始まりました。紫式部や清少納言が活躍した平安時代。この頃には、日本で「古紙の漉き返し」という使用済みの紙のリサイクルが行われていたとされています。当時は高価だった紙を大切にするだけでなく、平安の人々はエコな生活を既に実践していたのです。

漉き返した紙は、“薄墨紙(うすずみがみ)”と呼ばれていました。当時はまだ墨を抜く技術が未熟で、再生された紙に墨色が薄く残っていたためです。

また、面白い研究報告がされており、古い書籍に漉き込まれてしまった髪の毛を分析して、漉き返した当時の食生活が分かるということです。再生紙がタイムカプセルとなっているのです。

私たちが一般に紙と呼んでいる物は、紙(新聞、コピー用紙、包装用紙、ティッシュペーパー等)と板紙(段ボール、紙箱等)の2種類に分けられますが、社会や経済の発展、生活文化の向上に伴い、紙の用途は多様化し、それぞれの分野でますます活用度が高まっています。また、紙と同じ植物繊維由来で驚きの特性を持つ素材がありますので、これらについては次の機会にご紹介させていただきます。

今後は紙の用途や環境への負荷を考慮した上で、古紙のさらなる利用が促進されるでしょう。さらに紙としての再生が困難な古紙は、RPF燃料としてサーマルリサイクルもするなど、無駄のない活用を目指しています。日本での古紙の回収率とその利用率は極めて高い水準に達しておりますので、次回に改めてご紹介させていただきます。



中国の明末(17世紀)の産業技術書(天工開物)に載っている紙漉きの図

Series

「Mt.富士ヒルクライム」に挑戦!

三立処理工業 小林 聡資

お疲れ様です、小林です。 前回の予告通り、2025年6月1日に富士ヒルクライムという自転車レースに参加しましたので、そのお話をさせていただきます。

このレースは、富士山麓の富士北麓公園(雄大な霊峰富士の直下、標高1035mに位置する広域公園)から富士スバルラインの5合目まで約24km走り、標高差1,255m登るヒルクライムレースです。毎年8,000人前後参加します。もともとは、ダイエット目的で2024年1月頃から始めた自転車でしたが、最初は多摩川のサイクリングロードなど平坦なところを走っていました。50キロなど少し長い距離を走れるようになってから、アップダウンのあるコースを走ったところ、登りでは速度が出ずにベテランのサイクリストには抜かれてしまい、脚力の差が如実に表れることを思い知らされました。また地元で小学生時代から付き合いのある友達もロードバイクに乗っており、一緒に走ったりしながらグループライドする楽しさも感じていました。更には当初の目的であったダイエットも食生活を一切変えずに10キロ弱の減量に成功し、変化を感じていました。そんな中で、友人からの富士ヒルクライム参加のお誘いがありました。人生折り返しの50歳間近の自分も新たな発見や成長を感じた体験をしてみたいという心が芽生え、参加を決意しました。

申し込みを終えて、そこから4か月ほど練習を重ねていきました。申し込み時には自身で目標を立てておりましたが、練習やレースと同じコースの試走などをした結果、到底実現できないと感じ、現実目標である2時間切りを再設定しました。ヒルクライム練習での反省を生かしてケイデンスといわれるペダルの回転数は80を切らないよう回し、心拍数も160前後を維持して、体に行き届く限り酸素を送り込むというシンプルな戦略でレースに挑むことになりました。当日は晴天に恵まれ、気候も良くベストな条件でした。ほぼひたすら登るレースですが、シンプルな戦略が功を奏したのか無事目標の2時間切り(1時間54分59秒)で完走することができ、やり切った充実感が胸が熱くなりました。来年は新たな目標設定をして挑みたいと思っております。

最後に、昨今ワークライフバランスという言葉が飛び交っておりますが、昭和生まれの私の中でも、今回の体験を通じてこの言葉は人生の



友人と富士ヒルクライムレース場にて向かって左端が筆者

中でメリハリや些細な目標設定(仕事でもプライベートでも)があった方が日々の生活が充実するんだなという事と理解しました。

私は人生折り返しのタイミングで気が付きました(涙)が、このような自己満足で仕事とプライベート両方のモチベーションを上げることが出来ました。皆様も些細な目標設定をしていただく毎日の方が楽しくなるのではないかなと思っております。私の体験が皆様の何かヒントになれば幸いです。また次回に!